

【高等学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)  
A:十分達成できている C:やや不十分であ

学校名	佐賀県立牛津高等学校
1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して実習や資格取得等の指導に取り組んだ結果が出ており、高い就職内定率や進学実績にもつながった。</li> <li>・学力向上に向け、授業内容や指導法改善を進めるとともに、効果的な学習習慣を確立するための支援に取り組んだ。</li> <li>・唯一無二の学校づくりとして、地域連携活動を活性化させた。また、多くのメディアを通して、広報活動を充実させた。</li> </ul>

2 SAGAスクール・ミッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内唯一の家庭科専門校として、衣・食・ヒューマンサービスに関するスペシャリストを育成する。</li> <li>・生活の質の向上に関する専門的知識や技能を生かし、地域と様々な協働しながら、学校及び地域のさらなる活性化を目指す。</li> </ul>
------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
	①生活の営みに関することに興味があり、専門性の高い学びに取り組みたい生徒。 ②何事にも積極的に挑戦し、学び続ける意欲のある生徒。 ③思いやりを持ち、他者や地域のために役に立つことをしたい生徒。	①3年間を通して、衣生活、食生活、ヒューマンサービスに携わるスペシャリストからの指導を受けることで実践力を養います。 ②学校設定科目である「起業家入門」において、地域企業等と連携して商品やサービスの開発をおこない、発想力や企画力、表現力を磨きます。 ③「総合的な探究の時間」や「課題研究」において、地域と協働しながら、将来の自分の在り方・生き方を見据える活動に取り組みます。	①牛津高校で得た生活に関する専門的知識と技能を、人々の豊かな暮らしの実現のために生かすことができる人材を輩出します。 ②生活や社会の様々な問題解決に向けて、他者と支え合いながら考え行動する力を培います。 ③地域社会の活性化に貢献するために必要な、主体性や表現力、創造力を育成します。

4 本年度の重点目標	<p><b>1 経験を通して知性と感性を育み、将来を切り開く力の育成</b> 基礎学力を定着させるとともに、専門的知識や技能の修得と経験を積み重ね、知性と感性を育てる。日々の学校生活や地域貢献活動を通して、人や地域との繋がりを大切に、思いやりの心と協働する力を培うとともに、将来を積極的に切り開くことができる力を育てる。</p> <p><b>2 生徒の主体性伸長の支援</b> 生徒を褒めて、認めて、成長を支える教育活動を行い、自己指導能力を育成する。教職員は教育のプロとして、また生徒の伴走者として指導と支援を行い、学校生活や探究活動を通して、自ら課題を見つけ解決しようとする力を育てる。</p>
------------	---

5 重点取組内容・成果指標				最終評価			主な担当者		
(1)共通評価項目				中間評価 進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価 実施結果		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組					評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の向上 ○起業家マインドの育成 ○主体的な学びにつながる指導の充実	○アンケートで「目標を設定し、確実に行動することができる」「自分で計画を立てて活動することができる」と答えた生徒を70%以上にする。 ○学力診断テストの学習到達ゾーン(GTZ)以上の生徒を50%以上にする。 ○「起業家マインド(企画力、発想力、プレゼン能力など)が身につけている」と肯定的に答えた生徒を65%以上にする。	・教科や学科を超えて相互に授業見学を実施することができる。 ・生徒自身が目標を見出し、自主的な学習への取組となるように、各教科、学科において主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行う。 ・「基礎力診断テスト」のデータを分析した情報を職員間で共有し、生徒個別の課題を発見し、指導・支援を行う。					・教務主任 ・進路指導主事 ・家庭科主任	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校では豊かな心を育成する教育が行われていると答えた生徒を95%以上とする。 ○「他者を理解し、思いやりをもって人間関係を形成できた」の質問に対して「分からない」と答えた生徒の割合を10%以下にする。 ○いじめの早期発見・早期対応に積極的に取り組んでいると回答する生徒・保護者の割合が75%以上。 ○いじめの一定期間内での解消100%。	・生徒会活動などを通じ、「愛される牛津高校生」を目指す中で、自ら考え、周囲に目を向け、思いやりの行動をとることができる生徒を育てる。 ・さがを誇りに思う教育、薬物乱用防止、性に関する講演会等を実施する。 ・学校生活アンケートを年間2回実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応を行う。 ・問題が発生した場合は、迅速に対策会議を開催し、組織的な対応を行う。					・教務主任 ・生徒指導主事 ・教頭 ・生徒指導主事	
●健康・体づくり	●健康を考えて行動できる能力の育成	○食事や睡眠など健康面での自己管理ができる生徒を80%以上とする。 ○自分自身で感染症の防止に向けた対策をおこない、また、周囲の環境や他者に対する気配りができる生徒を80%以上とする。	・朝食の重要性や望ましい食習慣を形成することの大切さについて、保健だよりで発信する。 ・睡眠時間の確保と睡眠の質の向上について、保健だよりなどで発信・啓発をおこなう。 ・感染症流行情報を早期に発信し、対応方法を伝えるとともに、各クラスの保健委員が昼休みに校内放送で注意喚起を行う。					・保健主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を設定しやすいように、行事を精選する。 ・8月7日(金)から8月31日(月)までは、学校行事等を減らし、学校閉庁日等と併せて、休暇を取得しやすい環境を作る。 ・日報を充実させて、職員朝礼時の説明事項を削減する。 ・IoTやAIの活用を推奨すると共に、業務や行事の見直しや、業務の標準化を行い、職員の業務負担を軽減する。					・教頭	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識の向上	○特別支援教育に関する意識が向上したと回答した教員70%以上	・専門家を講師として、特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・特別支援教育委員会を定期的に実施して、関係者間での情報共有を行う。また、必要に応じて、個別にケース会議を行う。					・保健主事 ・特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価 進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組				評価	意見や提言	
●唯一無二の誇り高き学校づくり	◎★地域と連携した教育プログラムの魅力化 ★学校運営協議会(学校魅力強化委員会)の効果的な活用 ★選ばれる学校に向けた県内外への情報発信 ★県外募集・全国募集の推進	★学校運営協議会を年4回開催する。 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合85%以上、教職員の割合90%以上 ★魅力評価システムアンケートの「主体性に関するウェルビーイング」に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合65%以上、「社会性に関する自己認識」に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合65%以上	・学校運営協議会及び部会内での意見をもとに、学校魅力化の活動につなげる。 ・学校運営協議会委員による学校行事等への参加を積極的に推進し、学校を身近に感じてもらおう。 ・課題研究や起業家入門等の授業と地域をつなぎ、生徒の主体的な活動になるように深化させる。 ・地域連携講座を実施し、地域の課題や取組に関心を持たせる。 ・地域のボランティア活動や地域行事に参加を促す。 ・教育委員会主催の高校進学説明会において、すべての会場に参加し、魅力発信を行う。 ・生徒募集用のチラシ作成および配布を行う。 ・体験活動・地域連携活動を充実させ、中学生に情報発信を行う。 ・地域の小中学校で生徒による家庭科の出前授業、授業サポートを実施する。 ・食品調理科の授業(集団給食)で外部の人に試食をもらう機会をつくる。 ・全国募集に向けて、住まいの確保、生活支援の準備を行う。 ・県外からの志願者のためのオープンスクールを実施する。					・主幹教諭 ・主幹教諭 ・教務主任	

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
----------------------	---

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり